

高倉前会長 ありがとうございます！

高倉淳前会長には、平成 19 年 5 月 3 日に発足した「みやぎ街道交流会」初代会長に就任され、近世の歴史研究者かつ街道の県内第 1 人者として、またその実績とカリスマ性で、発足から 2 期 4 年間にわたり街道交流会をご指導頂きました。

平成 21 年、会員に向けた年頭挨拶『私たち交流会は、面として交流の輪をひろげ、今年も大いに楽しみましょう。関心を持つといろいろなものが見えてきます。見えた新発見を肴にして歓談すると、また一歩前に進みたくくなります。交流の輪が広がり、地域に残された文化遺産を正しく後世に伝えていくこと…』を实践され、数々の講演会講師や、街道探訪会では先頭を歩き、そして夜を徹して語り合う街道談義も欠かさず出席されています。

また、パソコンを自在に操り、講演などでは自作のパワーポイントを使用するとともに、81 才になる平成 19 年には、「八十の手習い」と称して、自らのホームページも開設し、仙台領の街道を中心としたこれまでの研究成果の論文を掲載されています。そのエネルギーと頭の柔らかさには、只々恐れ入るばかりです。

このように元気にご活躍されていることもあり、今後も会長として、引き続きご指導を頂きたいと思っておりましたが、昨年 10 月に病に倒れられ、現在自宅療養中でもあり、会長を辞したいとのご意向を踏まえ、今回、定期総会の議を経て、白鳥良一新会長にご就任頂くことになりました。

平成 21 年 12 月の大雪の日、栗原市金成地区の藪に埋もれた奥州街道対面に高倉前会長自らも参加され、翌年、正月発行の「みやぎ街道交流会ニュース第 12 号」の年頭挨拶に『百年後の人たちが史跡と伝説の豊かな金成を出発、松並木の下を歩き、茶屋で郷土料理に舌鼓を打ち、有壁本陣で大名や庶民の旅に思いをはせる…ここで寅年生まれの私の初夢が覚めました。』と夢を語っておられます。

私たちは、高倉前会長の初夢の実現に向けて、「みやぎ街道交流会」の目的である「地域資源等の保存、持続可能な活用を通じて、地域づくりに取り組む各種団体や人々に呼びかけ、心豊かで誇りあるみやぎの地域づくりに貢献する」ため、白鳥良一新会長のご指導の下、尚一層取り組んでまいりますので、今後とも名誉会長として、ご指導のほどよろしくお願いしたいと思えます。(事務局長 山屋敏英)

平成 23 年度定期総会の報告

6 月 4 日(土) 14 時から「みやぎ NPO プラザ」第 2 会議室において、平成 23 年度定期総会が開催されましたので、報告いたします。

開会に先立ち、東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げました。

開会挨拶は、高倉会長に代わり、京野副会長よりあいさつがありました。議長は、規約第 9 条第 2 項の規定により、5 月 27 日開催した幹事会の承認を得た大山副会長が務め、議事が進行されました。

- 議案第 1 号、第 2 号 (H22 事業報告、決算報告について) は一括審議され、質疑の後、事業報告、決算報告は原案のとおり承認されました。
- 議案第 3 号、第 4 号 (H23 事業計画、収支計画について) は一括審議され、事業計画、収支計画は、原案のとおり決定されました。
- 議案第 5 号 (規約改正 (案) について) が審議され、規約改正は、原案のとおり決定されました。併せて、規約第 4 条のその他会員として、会長が定める顧問、特別会員に加えて、名誉会長を設ける細則の改正が報告されました。
- 議案第 6 号 (役員改選について) が審議され、白鳥会長 (新任) ほか原案のとおり決定されました。なお、会長が委嘱する名誉会長として、高倉初代会長の就任が報告されました。

詳細については、議案書及び議事要旨をご覧ください。

街道談義を開催

定期総会及び記念講演会終了後、講師の柳澤さんや白鳥新会長を囲んでの街道談義が、総会会場となった“みやぎ NPO プラザ”の NPO レストラン“オリーブの風”において、有志の参加とはいえ 27 名もの沢山の会員の皆さんの参加を頂き開催されました。

美味しい料理や宮城県内の地酒により、街道の談義に花が咲き、いつものように大変に盛り上がりました。最後は、山屋新事務局長による街道交流会らしい「伊達一本締め」により、お開きとなりました。

※「伊達一本締め」: 三国一の武将たらんとする政宗の夢の実現の祈願を込め、三国一の三と一を掛けたものであり、家臣団の間で、いつからか会席においてこの手締めが行われるようになった。江戸時代以降は、そのいわれから幕府に遠慮して公には行われなくなり、松島町の円通院に代々伝承された。「よ～ パパパン よ～ パン」



記念講演会「貞観地震と多賀城」要旨

平成 23 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）は、『日本三大実録』に記載される貞観 11 年（869 年）5 月 26 日の陸奥国大地震と類似性が指摘されています。

今回の記念講演会は、急遽、東北歴史博物館 上席主任 研究員 柳澤和明氏に貞観地震・津波と多賀城をキーワードに、講演をお願いしました。



講演では、まず、陸奥国府多賀城の変遷について、第Ⅰ期から第Ⅳ期に大きく区分され、第Ⅲ期が伊治公岩麻呂の乱後の復興から陸奥国大地震による大被害まで、第Ⅳ期が大地震の復興の始まりとなることの説明がありました。

次に、家屋の倒壊、土地の地割れ、多賀城内の城郭・倉庫・門・櫓・築地塀などの倒壊や津波による溺死者 1,000 名など、土地・建物・道路・人など壊滅的な被害を受けたことが記されている『日本三大実録』の読み下しと現代文について、東京大学史料編纂所保立道久教授のブログ（※1）から紹介がありました。また、貞観津波についての最初の考察は、歴史地理学者吉田東伍の 1906 年「貞観十一年陸奥府城の震動洪溢」『歴史地理』第 8 巻第 12 号（※2）があるそうです。

続いて、地形・地震・津波研究者による近年の貞観津波研究について紹介があり、1990 年頃より活発化し、土層の柱状サンプリングから、十和田 a 火山灰の下位に汽水・海水域に生息する珪藻などが含まれる数 cm～数 10cm の厚さの細粒砂層が広範囲の地域で認められことが次第に明らかになり、この細粒砂層が貞観津波による堆積物と見られ、この分布を調べることで、浸水域や被害規模が分かってきた。（※3）今回の東日本大震災による浸水域とほぼ重なることから、大いに注目されるが、津波の規模の比較は今後の研究課題であるようです。

貞観津波による国府多賀城の浸水域の推定について、今回の大津波の遡上を砂押川の河口より約 4.5km 上流の「砂押鴻池橋」（東北歴史博物館西約 600m）の水位観測記録から分析した結果、16:20 の津波第 1 波が最高水位 3.31m（標高 3.68m）を記録し、河口 4.5km 地点まで遡上していたそうです。この橋付近の発掘地点の古代地表面では、貞観津波で同程度の津波が遡上したとすると 80cm 冠水したかも知れないとのことです。

但し、貞観地震当時の仙台平野北部の地形は、現在と大きく違い、潟湖があり、砂押川は南北大路の南延長線上に直線的に河川改修され、この潟湖につながっていたとも考えられているそうです。

古代の砂押川に近い南北大路跡や山王遺跡多賀城前地区などでは、洪水堆積物や津波によって壊された道路側溝跡が見つまっているようで、1,000 名にも及ぶ溺死者は多賀城内の方格地割に居住する都市住民と考えられ、方格地割都市の大半が冠水したと推定されるとのことです。

貞観大震災からの陸奥国の復興について、『日本三大実録』からは、同年 9 月に地震の被害状況を調査のため陸奥国に「検陸奥国地震使」を派遣、10 月に天皇の詔で被害のあった陸奥国に対して税金（租・調）の免除や自活できない者には食料の支給、その後は神社などへの祈願。また、翌年 9 月に新羅人瓦工を臨時に設けていた「陸奥国修理府」に預けて、瓦造りとその技を伝習させているそうです。

発掘調査成果からは、大地震により、第Ⅲ期の国府多賀城の城内でも政庁の主要建物も倒壊など大きな被害を受けたと見られている。そして、大地震後の復興の第Ⅳ期では、主要建物は前と同位置の礎石上に建て替えられていますが、屋根瓦が、それ以前の瓦に加えて、文様意匠の異なる「陸奥国修理府」で造られた瓦も多く用いられており、新羅人瓦工との関連が指摘されるそうです。また、城内各所の実務官衙や城外の方格地割の町並みも建て替えられ復興を遂げたようです。その期間は、貞観大地震から 9 年後、出羽国の「元慶の乱」に援兵 2,000 人が派遣されており、この頃には、援兵を派遣できる程に国力が回復していたとわかるとのことです。

この復興瓦は、「多賀城廃寺」ではわずか、「陸奥国分寺・国分尼寺」では類似するものが発掘調査から確認されているそうです。

（図表は、紙面等の都合から講演会配付資料又は※4をご覧ください。）

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

この講演は、「NPO ゲートシティ多賀城」のホームページに「貞観地震・津波からの陸奥国府多賀城の復興」と題する一般向けの論文（※1）を公開しており、今回はこれに基づいて行われました。なお、「東北歴史博物館」の秋のオープン講座において、柳澤さんがこのテーマで講師を務める予定とのことです。

【参考文献】

- ※1 「保立道久の研究雑記」〈<http://hotatelog.cocolog-nifty.com/blog/2011/03/index.html>〉
- ※2 吉田東伍記念博物館友の会通信（ウェブ版）〈<http://wind.ap.teacup.com/togo/>〉
- ※3 産総研活断層・地震研究センター「AFERC ニュース、No.16/2010 年 8 月号」〈<http://unit.aist.go.jp/actfault-eq/Tohoku/no.16.pdf>〉
- ※4 NPO ゲートシティ多賀城「貞観地震・津波からの陸奥国府多賀城の復興」〈http://gatetagajyo.web.fc2.com/jyougan_tunami.html〉

H23年春の街道イベントレポート

5月14日(土)「第13回二井宿峠古道ハイク」(山形県高島町二井宿)

新緑の古道と山菜料理を楽しむ恒例のイベントです。今年の参加者は、52名で、みやぎ街道交流会会員6名参加し、新緑の街道を堪能しました。特に、今年は新しいコースとして、宮城県県境にある中世の伊達の重要な城であった屋代館(新宿城)跡まで足を伸ばしてから、同じ古道を下って出発点の二井宿地区公民館に還りました。そして、お楽しみの昼食の時間です。今年は残念ながら手打ち蕎麦はありませんでしたが、手づくり山菜弁当と山菜汁をおいしく頂きました。

～山屋記～



桂橋から二の坂へ

6月11日(土)「芭蕉の道を辿り、往時を偲ぶ集いin仙台北下」(仙台市)

多少の雨は降ったものの、午後は暑い位の陽気の中、皆さん元気に、仙台北下の芭蕉の辿った道を偲びながら長町～新寺小路の妙心院まで約7kmを約4時間かけての探訪を楽しみました。参加者は27人と大盛況でした。妙心院には芭蕉翁墓(4日白石から着用した蓑が祀られた場所)の史跡があることなど初めての発見でした。

昼の寿司和膳も豪華で美味しく、最後には、みんなで一首づつ奥州三十六歌仙を吟じて、楽しいうちのお開きとなりました。次回、東照宮～編も企画中とのこと、皆さんの参加をお待ちしています。

～横山記～



妙心院で記念撮影

6月26日(日)「羽後岐街道トレッキング」(栗原市花山～栗駒)

羽後岐街道&千年クロベ探訪&世界谷地湿原のニコウキスゲを觀賞、雨模様の生憎の天気だったが、現地集合後参加者と協議した結果、小雨決行と云うことにした。旧街道沿いの雨に濡れた「ブナの森」は実に見応えがあり、森林浴を充分あびる事が出来た。参加者総勢11名で羽後岐街道を湯浜温泉から世界谷地湿原までの約12kmを昼食休憩を含めて約5時間半で縦走することが出来ました。

～新田幹事のブログより～



う～ん 10mはあるかな?

7月3日(日)「旧奥州街道と有壁宿を時代散歩しよう!」(栗原市金成)

2回目となる今年は、30名の参加で、新鹿野一里塚～十万坂～有壁宿～岩手県境までの約6kmの奥州街道を歩きました。

有壁本陣は、東日本大震災及びその後の大きな余震で、本陣内部は壁等に大変被害があるようで、内部は台所のみ見学でした。敷地内の土蔵の塗り壁がほとんど落ちて壊滅的な被害です。

早期の復旧が望まれますが、国の史跡であることから国・県・市とも協議が必要で、地域生活の復旧・復興の後になるとのことです。

最後に、萩野酒造の酒蔵の中にも見学出来、おいしい甘酒をご馳走になりました。～山屋記～



今後の行事予定

震災復興祈願 わらじで歩こうセツケ宿

今年で26回となります。

- ◇8月21日(日)
- ◇受付: 7:40～8:30
- ◇出発: 9:35
- ◇定員: 600名
- ◇参加費: 4,000円

(わらじ、昼食、通行手形、Tシャツ等及び復興支援金500円含む)

- ◇申込み内容
氏名・参加回数・住所・年齢・電話番号・足サイズ・Tシャツサイズ(S・M・L・LL)
詳細は

<<http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp/topics/?ctgr2=news#75>>

- ◇問い合わせ・申込み先
セツケ宿町観光協会
TEL 0224-37-2177
FAX 0224-37-2467

なお、前夜祭の“セツケ宿火まつり”は、東北最大の護摩供養が行われ、必見です!

震災復興祈願 わらじで歩こうセツケ宿参加申込書

参加者名	参加費	性別	年齢	電話番号	住所	Tシャツサイズ

編集後記

今回は、定期総会特集号として、新会長の就任のあいさつ、高倉前会長へのお礼のこことば、及び総会の議事報告。そして、記念講演会「貞観地震と多賀城」の要旨をお届けしました。これまでの編集長が交代して、臨時役で慣れない紙面作りでしたが、いかがでしたでしょうか。今年の夏は、節電でエアコンも控えめとの事で、水分を多めに取るなど熱中症に注意が必要とのこと。会員の皆様にはご自愛の程をお祈りしております。(山)